

大垣西濃信金誕生

大垣と西濃
両信金合併 東海14番目の規模

大垣信用金庫と西濃信用金庫が合併した大垣西濃信用金庫が12日、誕生した。

害の報告はなく、順調なスタートを切った。

【関連記事9面に】

西濃全域をカバーし、県内の信金では岐阜信金、東濃信金に次ぐ3番目、東海地区では14番目の規模となる。統合されたATM(現金自動預払機)システム障

1年かけて準備を進めてき

た。

新金庫は旧大垣信金本部(大垣市)を本部、旧西濃信金本部(瑞穂市)をみずほ本部とする2本部体制でスタート。店舗数は44店舗3出張所を当面維持するが、地域で重複する店舗は統廃合も検討する。

新金庫の預金残高は71

40億円、貸出金残高は3280億円、役員は639人(11日現在)。

合併セレモニーが12日朝、大垣市恵比寿町の本店営業部で行われ、新金庫の栗田順公理事長(旧大垣信金理事長)、西脇史雄会長(旧大垣信金会長)、大庭忠明副会長(旧西濃信金理事長)、来賓の飯塚厚東海財務局長らがテープカット。栗田理事長は「合併を機にさらなる経営体質の強化を図り、地域密着を深化させたい」と意気込みを語った。



大垣信用金庫と西濃信用金庫が合併し、誕生した大垣西濃信用金庫の本部＝12日午前9時25分、大垣市恵比寿町